

SHANTI



2023. 6
Vol. 317
シャンティ

特集 アジアの 街角から



巻
末
言

道



現場における学びに勝るものはない

国際ファッション専門職大学 専任講師／
京都大学東南アジア地域研究研究所 連携講師

直井里^り予

シャンティ国際ボランティア会との出会いは、私が初めてタイへ渡航した時です。1999年、バンコクでアジア子ども文化祭が開催されました。アジア各地から集まった子どもたちが、同じ空間でそれぞれの民族衣装をまとい、歌い、踊りを披露していました。私は、自らのアイデンティティを形成していく子どもたちの姿、そして、アジアの異なる文化が交わり輝きを放つ瞬間を目にし、大変感銘を受けました。

その後、バンコクのスラムを舞台にした民放テレビ局企画のドキュメンタリー番組の制作にコーディネーターとして参加し、スラムに住みながら、半年間取材を進めました。その間、シャンティの事業紹介映像を制作することになり、当時のシーカー・アジア財団支援対象地であるタイ国内4カ所（バンコク、パヤオ、ルーイ、スリン）に足を運ぶ機会をいただきました。この時にもシャンティの活動から多くを学びました。2001年には、難民キャンプにおける支援事業立ち上げの際に同行させていただきました。私はここで、後に私の映像作品のテーマとなるミャンマー難民に出会うことになります。

あれから22年、当時出会った子どもたちのほとんどが第三国定住の道を選びました。私は今、



映画撮影時に訪問した
難民キャンプにて



ミャンマー（ビルマ）難民キャンプでの活動開始時。図書館で読み聞かせをする職員のセイラー氏

アメリカで暮らすカレン難民と、難民キャンプに暮らし続ける親、離れ離れになった家族を映像で追っています。ミャンマーの民主化が進み、すべての難民が国境を自由に行き来できるようになるその日まで、ドキュメンタリー制作は継続するつもりです。

私は、現場における学びに勝るものはないと思っています。シャンティの職員の皆さんが地に足をつけて活動に取り組まれる姿は、私のドキュメンタリー制作の原動力となっています。

今この瞬間も、各国の現地職員の皆さんが、厳しい環境の中で活動を続けておられることと思います。そのことに想いを馳せながら、争いのない世界が、子どもたちが心穏やかに暮らせる日々が、一日も早く訪れることを願っています。

- 4 緊急レポート
ウクライナ危機
緊急人道支援活動
- 6 特集
アジアの街角から
- 14 世界の絵本を読んでみよう
「白鳥とカメ」
カンボジア 2002年
- 16 世界の麺 ミャンマーの麺「ラカインモチ」
- 17 世界の現場からAIRMAIL
▶ラオス事務所 ▶ネパール事務所
- 22 理事・監事が選出されました
- 24 開催報告 ラオス事務所30周年オンラインイベント
「教育の改善に向き合った30年」
- 26 開催報告 シャンティ設立記念日オンラインイベント
プラティープ・ウンソンタム・秦先生 講演会
- 28 つくり手さんのぬくもり
アフガニスタン生産者団体
シルクロード・パーミヤン・ハンディクラフト
- 29 絵本に込められた想い
『オレンジいろのペンギン The Story of James』
- 30 ファインダーをのぞいて「ホームにて」
- 31 お知らせ
- 32 道 現場における学びに勝るものはない
国際ファッション専門職大学 専任講師／
京都大学東南アジア地域研究研究所 連携講師
直井里予

2020年に始まったコロナ禍から3年半が過ぎました。コロナをきっかけに大きく変わった日常生活や働き方にそれぞれが順応し、感染対策も自粛からウイズコロナへと徐々に変わってきています。ロックダウンや公共施設の閉鎖、外出制限とリモートワーク、医療体制の崩壊などの影響で多くの大切なものが失われましたが、取り戻しつつあるもの、新たに得たものもあります。今号では、各活動地の海外事務所職員にこの3年を振り返ってもらい、現在の活動地の様子や人々の声をお届けします。



今号の表紙

大みそかのカウントダウンでランタンを飛ばす様子・カンボジア (2022年撮影)





- ①避難している子どもたちのためのセラピー活動
- ②生活再建を支援するための職業訓練
- ③裁縫講座で使用するマシン

幅広い支援を実施しています

シャンティは2022年8月より、ポーランドおよびウクライナの現地のパートナー団体と連携して、両国において3000人を超える方々に幅広い支援を実施してきました。主な支援内容としては、食料、日用品、教育支援物資配布などに加えて、新しい土地で生活を立て直すことを目的とした職業訓練やセラピー活動を含めた生活再建支援を実施しています。また、ポーランド国内では避難民の子どもたちを対象に心理社会支援としてグループセラピーも実施しています。

長引く避難生活によって、多くの子どもたちが心に大きな傷を抱えており、心理的ケアや教育支援は重要性を増しています。シャンティが実施した子どもたちへの支援には多くの保護者から感謝の声が届けられています。



ウクライナ危機

—— 緊急人道支援活動 ——

学用品を受け取った避難している子どもたち

今後の取り組みについて

ウクライナ国内への支援に加え、周辺国やコミュニティにおいては長期化する戦争によって生じた負の影響をこれ以上波及させないこと、また、軽減する取り組みも同時に求められています。国際機関、政府機関、コミュニティと連携し、避難民を受け入れている行政の受け入れ能力の向上および支援メカニズムの基盤構築、避難民の社会統合などを積極的に進めていく必要があります。国内および周辺国においても避難民の受け入れに関しては比較肯定的な意見が多く、行政も地域も受け入れに積極的である一方、すべての支援基盤をこうしたマンパワーに頼る状況には限界があります。避難民の安全を守る

活動に加え、こうしたホストコミュニティの負担を軽減しつつ、地域ごとに避難民の人々と共生するための新たなビジョンを構築していくことが重要です。



あしだ ゆうた
芦田雄太
地球市民事業課
海外緊急人道支援担当



パートナー団体との打ち合わせ



避難民センターにて（左端が芦田職員）



子どもたちに配布する学用品の準備

第2次世界大戦以降、未だかつてないほどに欧州の軍事的な緊張は高まっています。ウクライナへの侵攻は安全保障環境を一変させ、民間人を含む591万人以上が国内で避難を強いられ、800万人以上が安全を求めて国外へ避難しています。幼稚園や学校、病院などの民間施設への無差別な攻撃が連日報告されており、子どもたちを含む多くの民間人が犠牲となっている状況を見過すことはできません。

ウクライナ全土で衣食住を中心とした基本的な人道支援ニーズが高い状況が続いていますが、人道危機が長期化すればするほど必要とされる支援はより複雑化していきます。停戦の兆しが見えない中、避難先での定住に向けた支援ニーズはもはや周辺国のみならず、戦闘地域周辺においても重要性を増しており、国内避難民を対象とした、教育、医療、就業、インフラ施設の整備など、生活の基盤を再構築するさまざまな援助に取り組んでいく必要があります。

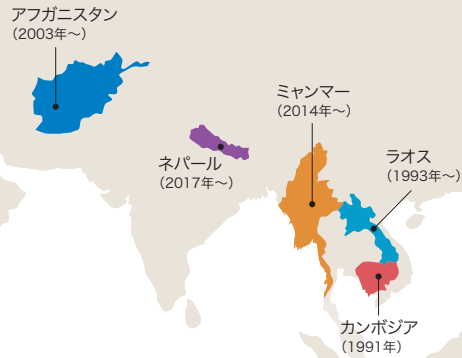
新型コロナウイルスの未曾有の感染拡大により、世界中の人々が苦難を強いられました。それはシャンティの活動地も同様で、経済や社会の混乱を招き、町から人が姿を消しました。特にコロナ感染拡大に加え、ミャンマーでは2021年2月1日に軍事クーデターが起きました。経済は落ち込み、治安悪化が加速する中、それでもミャンマーの人たちは日常を生活しています。「戦わなくていい。変わらなくてもいい。日々淡々と過ごしていけるのであれば、それで良い」と、あるミャンマーの人は話しました。

特集 アジアの 街角から

また、アフガニスタンでは、2021年8月15日にタリバン暫定政権が政権を掌握した結果、女子教育や就労の禁止、女性NGO職員就労禁止など、さまざまな制限を課しています。それでも、逆風に屈することなくアフガニスタン国内の市民団体、旧政権下の職員、そして女性たちを含む多くの人たちが立ち上がっています。

私たちはコロナから、日常が当たり前にあることが、いかに大切であるかを学びました。カンボジアではコロナ前と同様に川沿いで家族や友人と食事をする姿に戻り、ラオスでは開催が延期されていた伝統行事などが3年ぶりに再開されました。ミャンマー（ビルマ）難民事業事務所のあるタイのメーソットでは、ミャンマー国境に架かる「友好橋」が再開したことで人の往来も増え、ネパールでは多くの観光地が通常どおり営業しています。

世界は今、コロナと共に歩む新しい生活スタイルを取り入れ、前へ前へと進んでいます。シャンティは、これからもどのような状況、環境でも誰一人取り残さない、一人ひとりの尊厳を守るため、活動を続けていきます。



閉鎖されていたミャンマーとタイ国境を結ぶ「友好橋」が2023年1月12日に3年ぶりに再開（タイ・メーソット）

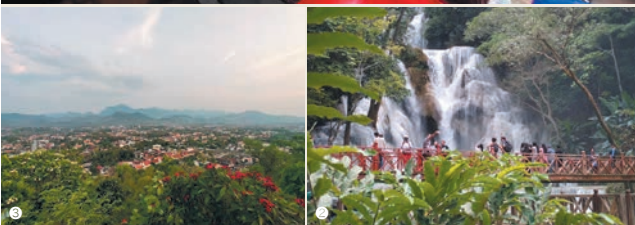


ほとんど人がおらず、閑散としたパンデミック中の公園（アフガニスタン）



パンデミック収束後は、夜のイベントや市場にも人が戻ってきています（ラオス）





① ナイトマーケットの様子。コロナ前と比べるとまだまだ人出が少ないです。② 外国人観光客が戻りつつある観光名所クアンシーの滝。③ ルアンパバーン市を一望できるプーシーの丘からの眺め。

アジアの街角から ラオス



現在、ラオスの感染状況は収束傾向にあり、2022年5月9日に政府は海外からの入国者規制を緩和し、外国人観光客の入国を正式に再開しました。政府は今後、映画祭、マラソン、イルミネーションポート（仏教の四旬節）、ポートレース大会といったイベントやお祭りを通常通り開催することを認めています。



① 現在の露店の様子。マスクをつけながらも人々にぎわっています。② 最近は川沿いにも、たくさんの人々が集まっています。③ 夜のレストランの様子。夜間でもお店はほとんど通常営業です。

アジアの街角から カンボジア



カンボジアでは、コロナは完全には無くなっていないものの、生活は元通りになりました。現在、観光客の規制はすべて撤廃され、観光地、レストラン、お店、市場、お寺や学校はすべて再開し、パンデミック前の状況に戻っています。また、アンコール王朝時代には「水の帝国」と呼ばれていたカンボジアは、各地域の采配によって「水祭り」が再び開催されています。

今回のパンデミックは、食事、人付き合い、旅行、お金の使い方など、私の日常生活での行動を変えるきっかけになりました。外出を控え人混みに行かない、節約して必要なものだけを買う、家族と一緒にいる時間を増やすなどです。実家の裏庭で野菜を育てたり、木を植えたりしています。またコロナの流行は、自然環境や生態系に良い影響を及ぼしているとも思います。多くの観光地で、環境改善が進み、都市部では道路を走る車の数が減ったことで大気汚染が激減しました。



デンさん
総務アシスタントコーディネーター

日本人に紹介したい品物



「カイペーン（川海苔）」

カイペーンは、ルアンパバーン県の名産で、ラオス北部のメコン川などで採れる藻類から作られます。タマリンドまたはオリーブの果汁で味付けし、ゴマ、ニンニクのスライス、トマトやタマネギを散らします。おつまみとして食べることもできますが、ご飯のおかずとして、チェオボーン（甘辛い味噌）につけて食べるとさらにおいしく食べられます。

2019年にシャンティに入職し、約4年がたちました。2022年3月まで、コロナの状況は良くなりませんが、今はコロナとの生活に慣れてきました。4月からコロナの症例が減り始め、パンデミック前と同じ状況に戻り始めました。厳しい規制が撤廃され、自由に移動できるようになり、お祭り、イベント、集会、学校も再開されました。クメール正月とプチュンバン（お盆）には私も家族と一緒に祝いことができ、みんなお互いに会えることがうれしく、とても良い時間になりました。コロナ後はより家族との時間を大切にしようと感じています。



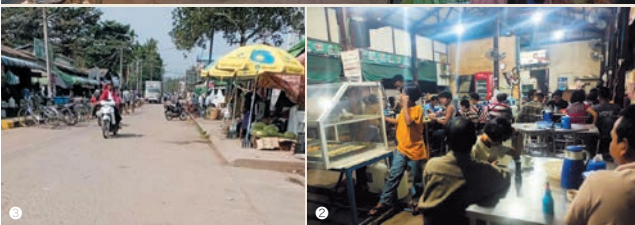
ソンバットさん
エンジニア

日本人に紹介したい品物



「アモック」

アモックは、カンボジアで最も有名な料理の一つです。かつてアモックはクメール王家の料理とされ、エリート層のみが食べることができ、庶民は食べることができませんでした。アモックは失われたカンボジア料理の一つで、代々レシピを守ってきた家族により、近年復元されました。淡水魚、ココナッツクリーム、カレーペーストに似た「クルーン」をバナナの葉で作った器で蒸し焼きにします。



①現在のローカルマーケットの様子。②現在のレストランの様子。通常どおり営業しています。③町の通りの様子。まだ少し人はまばらです。

アジアの街角から ミャンマー



コロナと軍事クーデターによって、人々の生活は一変しました。現在も、人々の生活やビジネス状況は安定しておらず、これまで以上に苦しんでいます。また、ミャンマーを訪れる海外観光客の数は減少しました。コロナ前と比べると、少しずつメインストリートや寺院、マーケットなどは営業を始めています。

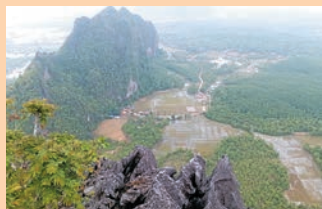
コロナによって日常生活は変わりました。在宅勤務をせざるを得ませんでしたが、周囲の騒音やほかのスタッフとのコミュニケーション不足などさまざまな不便がありました。

最近は日常生活も戻りつつあり、自由に生活している人も多く、パンデミックは終わったように感じます。しかし、私は今も出かける時はマスクを着用し、帰宅時はよく手を洗うといった感染対策をしっかりとるようにしています。

ゼ・ヤ・リンさん
アシスタント・コーディネーター

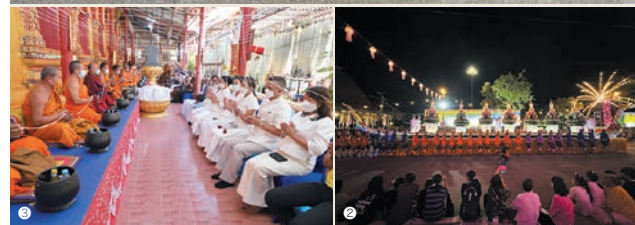


日本人に紹介したい品物



「タンウィンパゴダ」

バアン市にある山の一つで、頂上まで300メートルほど、約45分で山頂に到着します。朝日がとても美しく、地域住民にはもちろん、観光客にも有名です。早朝だと、雲海を見ることができます。頂上から、バアン市や他の山脈を見ることができ、タンウィン（山）、パゴダ（周り）と呼ばれています。



①空港の様子。旅行に出かける人を見かけるようになりました。②ロイクラトン祭りは水の祭りの一つで、灯籠を川に流すことで知られています。③コロナ禍は開催が中止されていた宗教イベントも今年はようやく開催されました。

経理担当として勤務し、今年で20年目となります。コロナがまん延してから、私生活や仕事の仕方は大きく変わりました。人との接触を避けるため、買い物などはオンラインを活用するようになりました。これまでは、週末はメーソットから車で2時間離れた地元に住む妹の対面販売の仕事を手伝いに行っていましたが、今はオンラインで販売する新しい方法になりました。また、パンデミック収束以降も私は家族の誰よりも感染対策を行い、家族がかからないよう徹底しています。

ティックさん
経理担当



アジアの街角から ミャンマー（ビルマ） 難民キャンプ



ほとんどコロナ前の生活に戻ったタイ・メーソット。ビーチやリゾート地にも多くの観光客が訪れています。タイ全土で毎年旧暦の12月に開催されるロイクラトン祭りでは、多くの参加者が楽しんでいる様子が見受けられました。また2023年1月にはタイとミャンマーをつなぐ「友好橋」の使用が再開され、これから人の往来が期待されています。

日本人に紹介したい品物



「カレン族の衣装」

カレン族の衣装は天然素材を使った染布からつくった伝統的な衣装であり、色や模様は時間をかけてゆっくりと変化していきます。難民キャンプでは、カレン織りは家庭で行われ、収入源です。ここでつくられた商品は、キャンプ内や国外にいるカレンコミュニティに送るイベントなどで販売されます。また、最近ではカレンダーのファッションショーなども行われています。



①バサントプールで開催された「ジャトラ」というカトマンズ盆地に住むネパール族のお祭りの様子。②有名観光地のひとつ、ダルバール広場の現在の様子。③パンデミックが終わった直後の市場の様子。

アジアの街角から ネパール



アウトドアを中心とする観光業が主要産業であるネパールは、コロナによって大きな打撃を受けました。現在は、コロナの規制も撤廃され、多くの観光客が訪れるようになりました。隣国のインドやバングラディシュとも手を組み、観光促進に力を入れています。また、外資系ホテルの建設ラッシュをはじめ、繁華街には人が戻り始めています。

コロナ禍は自分の人生を考えるきっかけになりました。将来の不測の事態に備え、事前に計画して行動する必要性を感じ、それを仕事やプライベートでも実践するようになりました。また、パンデミックに伴い多くの人が職を失い、多くの民間企業が閉業したため、雇用者、被雇用者ともに働き方の変更を迫られました。しかし、私は最悪の状況はすでに過ぎたと感じており、パンデミック後の世界はより強く、より困難に屈しなくなったはずで、コロナを教訓とし、世界の人々と共に明るい未来を築いていきたいと思っています。

ナワールさん
プロジェクトコーディネーター



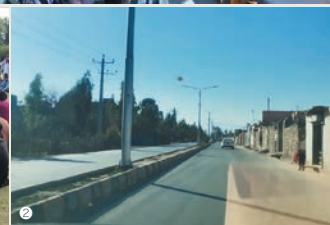
日本人に紹介したい品物



上:ダッカ織り
右:タンカ

「ダッカ織り」「タンカ」

ネパールには良質でユニークな品物や食べ物がありますが、2点紹介します。まず1つ目はダッカ織り布です。これはネパールの伝統的な繊維で、手織りでつくられています。多彩な色や模様があり、衣類やスカーフ、ショールといった製品に使用されます。2つ目はタンカと呼ばれる掛け軸です。これはチベット仏教がかたどられており、主に寺院などで飾られています。



①最近のジャララバード市内の様子。②コロナ禍のジャララバード市内の様子。人影がほとんどありません。③ナカムラ記念庭園で開催されるイベントに参加する人々。

アジアの街角から アフガニスタン



コロナはアフガニスタンの人々を経済的、精神的に追い詰めました。また政変により多大な影響を受けました。それでも人々は前向きに、自分たちの将来や経済が少しでも改善するよう以前と同じように生活することを心掛けています。また、コロナ禍は人がほとんどいなかったモスクや市場、観光地、公園にも少しずつ人や車が増えてきました。

コロナが増えてきたころは職場であらゆる感染対策を行っていました。私はコロナの感染が怖かったので予防を徹底していました。職場のみならず、自宅も含めてソーシャルディスタンスを実践し、握手を控え、物の貸し借りも行いませんでした。現在は、少しずつ状況が戻りつつあり、日常に幸せを感じることが増えました。アフガニスタン人の間でもお互いに対する思いやりがまた増えてきたように感じます。コロナによって、アフガニスタンの人々の生活は大きく変わり、家族を失った人や、モラルを失ってしまった人々もいます。それでも、それぞれが再び自分の足で立ち上がっています。



ナターシャさん
子ども図書館
図書館員

日本人に紹介したい品物



「カブリ・バラウ」

この料理は、もともと首都カブールの裕福な家庭でつくられていました。今では、アフガニスタンの人が結婚できるかは、カブリ・バラウの味次第といわれるほど一般的な料理となり、祝い事など特別な日にも振る舞われます。蒸したお米、キャラメル人参、レーズン、ナッツ、牛肉もしくは羊肉を加えた料理で、地域によってさまざまなバリエーションがあります。「カブリ」とはダリ語で「よくできた」という意味です。

白鳥とカメ

3

1
カメの住んでいる池にいつも遊びに来る白鳥の夫婦がいました。カメと出会った白鳥は、カメに自分たちの友達になってくれるように言いました。そして、白鳥とカメは長い間一緒に暮らしました。



2
しかし、時がたち、その池の水が干上がってしまったのです。カメは白鳥に言いました。「白鳥さん、私はもうこの池に住むことができません。どうぞ私のためにほかの池を見つけてください」。



白鳥は言いました。「分かりました。私たちが、水とハスの花があふれるヒマラヤの大きな池へ、空を飛んでお連れしますよ。カメさん、どうぞこの枝をかみつづけてください。どんなものを見ても、音や声を聞いても、何も言ってはけません。空の旅は危険ですから」。



5
それを聞いたカメは怒って「子どもたちは本当のことを知らないのだ。白鳥さんとは仲が良いし、水のたくさんある大きな池に私を連れて行ってくれるんだ」と、子どもたちに話そうと口を開けました。すると、カメが口を開けた瞬間、カメは地面へ落ちてしまいました！



6
白鳥の言うことを守らなかったカメは、危険な目に遭ってしまったのです。そのまま白鳥は遠くへ飛び去ってしまいました。



4
そうして白鳥はカメを連れて、ヒマラヤに向かい飛び立ちました。しばらく空を飛んでいると、子どもたちが、カメを運んで空を飛ぶ白鳥を見つけました。そして大きな声で言いました。「あ！白鳥がカメを捕まえて、巢で食べようとしているよ」。

世界の現場から

AIRMAIL

To 日本の皆さん From 活動の現場

このページでは、
アジアの各国で活動する
シャンティの様子や
職員を紹介します。



『おおきなかぶ』再話：A・トルストイ、訳：内田莉莎子、画：佐藤忠良（福音館書店）



From Laos

ラオス事務所

対象地域の教員たちの技術とスキル向上の支援として、読書推進のためのワークショップやフォローアップを実施し、教員自ら活動を実施できるよう注力しています。

From Nepal

ネパール事務所

多民族・多言語国家として多様性に富むネパール。現在、ネパール事務所では政府や地域と連携して、コミュニティ図書館能力強化事業や学校給食改善事業に取り組んでいます。



世界の麺

シャンティの活動地にはユニークな麺料理がたくさんあります。お年寄りから子どもたちまで年齢や世代を問わず愛される麺料理を、シャンティの職員がご紹介します。

チリの辛さとタマリンドの酸味がクセになる！
ラカインモティはミャンマー西部に位置するラカイン州に由来しており、ミャンマーの民族食の一つです。透明な魚のスープに、かまぼこ、揚げたえんどう豆、コリアンダーがトッピングされています。緑唐辛子を入れるとより辛く、タマリンドを入れると塩味と酸味が加わり、よりおいしくなります。私はこの麺を主に朝、ときどき夜に食べます。スープと麺を別々に注文して食べることもあります。
つくり方は、ベースのスープは魚と一緒にレモングラス、ターメリック、フィッシュソースまたは塩を加えて煮ます。魚を取りだしたら、魚の骨と身を分けます。沸騰したお湯に、その魚のスープを加え、ニンニク、黒コショウ、刻んだガラダール（シヨウガ）、魚肉を加え、また少々沸騰したらエビのペースト、塩、魚のソースを加えます。最後に、器に米麺を入れ、麺を覆うようにゆっくりスープを入れます。トッピングに、かまぼこ、揚げたえんどう豆などを加えたら完成です。一般的な米麺と味が違うので、メラ難民キャンプ内にはお店は多くありません。コミュニティ図書館近くのお店がおすすめです。



コミュニティ図書館近くのラカインモティが食べられる場所。スープを入れても入れなくてもおいしいですよ。

ミャンマーの麺

【ラカインモティ】

ရခိုင် မီးတံ



ドウドウーさん

ミャンマー（ビルマ）難民キャンプ委員、コミュニティ図書館アドバイザーとして働いています。

Hot Topics

1 読書推進活動ワークショップ

2018年から24校の教員72名を対象に、読書推進の意義や図書コーナーの運営、図書の貸し出し、読み聞かせの技術など、読書に関する知識を提供する読書推進活動ワークショップを行いました。2021年と2022年は、教師と村教育開発委員会を対象に読書推進活動を実施しました。

2 対象校での移動図書館活動とフォローアップ

子どもたちに読書の習慣を身に付けてもらうため、シャンティ職員が中心となって、教員と村の住民を対象に、歌、ゲーム、読み聞かせ、お絵かき、エプロンシアター、手洗いの歌などの活動を実演しました。また、学校の図書室や読書コーナーをチェックし、設置方法、図書の管理方法などをアドバイスしました。

3 フォローアップ会議の実施

2022年はさまざまなフォローアップ会議をバクセン郡で実施しました。対象校の教員を対象としたもの、住民と教員を対象にしたもの、移動図書館活動の振り返りを目的としたものなど会議の内容は多岐にわたりました。



ラオス事務所 事業スタッフ
センサワン・アリヤ

PROFILE

2013年から2016年まで、中学校にボランティア教員として勤務。読書推進などの活動でラオスのへき地におけるシャンティの教育支援に興味を持ち、2016年6月に入職。移動図書館活動担当。

さまざまな良い変化が生まれました。しかし農村部では、校舎や教材の未整備や教員の不足など多くの課題を抱えています。また人口の大半は、少数民族のカムとモンの人々であり、ラオス語を母語としないため、意思疎通が課題となっています。これからも読書推進などの活動を継続して、農村部の教育の質の向上に貢献します。

移動図書館活動を通して、子どもたちは読書習慣の定着やラオス語の習得、教員は絵本の読み聞かせ技術の習得など、さまざまな読書推進活動で農村部の人々にも質の高い教育を提供したい

子どもたちの読書能力を高めるために教員育成は必要不可欠

ラオスは山がちな地形で、多くの小規模学校が点在しています。特にへき地では、学校図書室や読書コーナー、絵本が不足しています。また、教員も読書スペースの設置や本の管理方法、子どもたちへの読み聞かせの技術などの知識が不足しています。そこでラオス事務所では、教員が技術やスキルを得られるよう、対象地域において読書推進のためのワークショップやフォローアップを実施し、教員自ら活動を支えるよう支援しています。

From Laos

ラオス事務所

移動図書館を通じて子どもの読書推進にも力を入れているラオス事務所。近年は政府による児童図書の配架は行われましたが、農村部では図書の活用課題があります。



Hot Topics

1 栄養教育を目的とした紙芝居の利用

栄養教育を目的とした紙芝居を制作しています。この紙芝居は、食や栄養、衛生などの内容に特化しており、各小学校に配布されました。また、紙芝居は子どもたちのみならず、その両親や教員、コミュニティの啓発目的としても使用されています。

2 衛生と食習慣の改善を目的とした研修の実施

子どもたちだけではなく、政府機関や自治体、教育関係者などの意識改善を目的として衛生と食習慣改善研修を実施しました。学校は地域の食材を生かした料理を提供するようになり、衛生と食習慣が改善されました。また、これまで8,535人の母親にも学校給食や栄養、衛生に関する啓発活動を実施し、学校給食の運営に積極的に関わってもらっています。

3 平等で包摂的な学校づくりへ

栄養・衛生教育活動では、先生たちに子どもが主体的に参加する学習ツールを活用してもらっています。これにより民族やカーストなど異なる背景を持つ子どもたちが、より積極的に授業に参加するようになり、学校がより平等で包摂的な空間になりました。



From Nepal

ネパール事務所

コミュニティ図書館能力強化事業や子どもたちの教育のためのさまざまな活動を実施しているネパール事務所。学校給食改善事業に携わる現地職員がお伝えします。



ネパール事務所 事業スタッフ
ガネシュ・クマー・ラマ

PROFILE

これまで15年以上国内外NGOでの勤務経験を有し、2020年6月にシャンティ入職。現在はプロジェクトマネージャーとして業務に関わる。モットーは「忍耐は平和な社会を築く力となる」。

私たちが活動する地域は多様性に富んだ場所であり、多民族、多言語、多文化の地域です。40パーセント以上が、タマン語を母語として使用しているため、事業を実施するときは言語の壁が少なからずあります。さまざまな課題がありますが私はシャンティの活動を通して、学ぶ機会のない子どもたちのために、事業を実施できることをうれしく思います。

言語の壁も乗り越えながら

学校給食で子どもの健康を改善したい

ネパール事務所では、現在コミュニティ図書館能力強化事業と、国連世界食糧計画（WFP）連携のもと学校給食改善事業（栄養教育活動）に取り組んでいます。コミュニティ図書館能力強化事業では、これまで4つのコミュニティ図書館が建設されました。また学校給食改善事業では、学校給食推進のための啓発活動や栄養・衛生教育を行っています。学校給食はネパール教育部門で優先度の高い分野で、学校給食は学校に通う子どもたちの健康や学びを向上するのに必要であると考えられています。実際、シャンティが活動する地域では「学校給食が始まってから、子どもたちの就学状況や出席状況が改善した」などの声が聞かれるようになりました。

理事・監事が 選出されました

2023年3月28日（火）に行った定時社員総会において役員が選出され、新役員体制となりました。

※肩書は2023年4月時点のもの



理事
山本英里
シャンティ国際ボランティア会 事務局長

紛争や災害など危機下にいる子どもたちへこそ支援を継続できるよう、役職員一丸となって知恵を出し合い、取り組んでいけるよう努力してまいります。一人でも多くの方と平和な社会の実現に向けて手を取り合っていきたいと願っています。



理事
横澤敬雄
長野県・東昌寺 住職

「共に生き、共に学ぶ」シャンティの理念を心に寄せ、国内外で地道な努力を重ねて活動されておられる職員の皆さまのご苦労や事業などを、多くの方々に関心を持っていただけるように伝えていければと思います。



理事
横山俊顕
曹洞宗総合研究センター 講師、
福島県・安洞院 住職

従来の広告や大義ではなく、現代は「好き」「共感」によって人は動く時代となりました。シャンティの活動を通じて好きな人や国や文化が増え、地球のみんなが共感して動く世界の実現に向けて、共に学んでまいります。



監事
中山雅之
国士館大学大学院グローバルアジア研究科
教授

環境の変化に適応しながら、限られた資源で成果を出す行動が戦略です。変化し続ける世界の中で、国際協力はどこへいくのか。皆さんと共に行動できるのを楽しみにしています。



監事
野中茂
公認会計士（野中公認会計士事務所）

コロナ禍そしてウクライナ情勢が緊迫化する中、NGOを取り巻く内的・外的環境が一層厳しさを増しています。「本の力を、生きる力に。」の初心を忘れず、「公益」の名に恥じないようコンプライアンスとガバナンスに気を配ってまいりたいと思います。



理事
佐藤真美
一般社団法人 Earth Company
日本事務局長

国際協力NGOとして受け継いできたレガシーを大切にしつつ、新しいチャレンジにも果敢に向き合うシャンティを、少しでもお手伝いできればと思っています。



理事
関根隆紀
埼玉県・光秀寺 住職

「共に生き、共に学ぶ」同事の教えを心に留め、これまで当会で活動されてきた方々の思いを少しでも引き継げるよう、一人の僧侶として微力ながら尽力させていただき所存でございます。



理事
東海泰典
シャンティ東北 代表、
宮城県・松源寺 住職

シャンティ東北の主任として2,500の東北管内寺院（曹洞宗）に活動のご理解とご協力を進めてまいります。



理事
直井里予
国際ファッション専門職大学 専任講師、
京都大学東南アジア地域研究研究所
連携講師

シャンティの理事に就いてから、あっという間に2年がたちました。この間、さまざまな出会いと学びがありました。シャンティの活動を通して、争いのない穏やかな地域社会の形成に少しでも貢献できれば幸いです。



理事
八木澤克昌
シーカー・アジア財団 アドバイザー

「ミバド」とは、「ミッション」「パッション」「ドリーム」の頭文字。この三つを信条に、国際協力の現場の最前線で42年活動させていただきました。「ミバド」に加えて、現場の今を「伝える」「つなぐ」「創る」を実践していきたいと願っています。



常務理事
有馬嗣朗
あんでねっと事務局、
山口県・原江寺 住職

行には願いがなければならない。願いがあるから行ずる。誰もが願う社会とは。その社会づくりとは。シャンティはきっとつくります。



常務理事
神津佳予子
株式会社 KOZUstyle 代表取締役

世界中のすべての子どもも大人も、「生きるってこんなにわくわくすることなんだ!」と実感できる世の中にするため、38年間シャンティの活動に関わってきました。ご支援者の伴走に深く感謝いたします。



常務理事
松永寛道
静岡県・宗徳院 住職

目まぐるしく変わる社会情勢の中、国内外の職員にはいつも多くの情熱をおすそ分けいただき感謝しかありません。シャンティな社会の実現のため、さらに共に学んでまいります。



理事
浅野幸子
早稲田大学地域社会と危機管理研究所
招聘研究員

先が見通しにくい時代だからこそ市民主体のボランティア活動の価値は一層たかまわっていると感じます。シャンティの強みを生かし、海外と国内の課題の共通性も見いだしながら共感の力で平和で安心な社会づくりを！



理事
伊藤弘泰
TD SYNEX 株式会社
常務執行役員部門長、
筑波大学 / 岡山大学 非常勤講師

東日本大震災より地方創生のNPOの設立をへて、シャンティのような世界で活躍する団体にやっと出会うことができました。世界のすべての子どもたちが本や教育にアクセスできる環境を微力ながらご支援できればと思います。



会長
若林恭英
安楽友の会 代表、
長野県・安楽寺 住職

激動する社会の変化に対応し、かつ「共に生き、共に学ぶ」謙虚な姿勢は、一見泥くさいかもしれないが活動地域との信頼関係構築へ向けて、これからも堅持してまいります。



副会長
茅野俊幸
公益財団法人庭野平和財団 理事、
長野県・瑞松寺 住職

祈りに国境なく、祈りに終わりなく。両の手に社会の出来事を包み込み、さまざまな国の出来事に心を寄せて祈る。合掌する手の先に「何を感じ、何が見えるか？」常に問い続けながらシャンティの活動を深めていきたいと思っています。



副会長
秦辰也
近畿大学国際学部 教授

40余年で活動対象地域は拡大し、海外ではウクライナ避難民支援、国内では外国ルーツの子ども支援も正式に始まりました。シャンティの原点を忘れず、多様性を尊重し、身近なところから一歩ずつ共に歩む大切さを痛感しています。



専務理事
岡本和幸
上総自然学校 代表、
千葉県・真光寺 住職

インドシナ難民支援を端緒に始まった当会ですが、世界の難民は増え続け、また自然災害は頻発激化の方向です。職員一同奮闘努力し、力を合わせて、ご支援者皆さまのお気持ちを着実に現場に届けてまいります。



シャンティとラオスの出会いは、1975年の国家成立まで長く続いた内戦や政治混乱の影響を受け、タイに避難したラオスの難民の方に対して支援活動を行ったことに始まります。1992年にラオス事務所を構えてから30年を迎えた2022年、ラオスでの長年の多岐にわたる活動を振り返るオンラインイベントを実施しました。(内容・肩書は2022年10月時点)

ラオス事務所30周年オンラインイベント 「教育の改善に向き合った30年」



矢島 緑

ラオス事務所 所長。開発コンサルタント会社などを経て、2019年にシャンティ入職。事業サポート課にてラオス・カンボジア事業を担当後、2022年9月より現職。

ポンサワン・ウワンサワット
(通称タイ)

ラオス事務所 プロジェクトスタッフ。他NGOの運営する学校で教員として勤務した後、プロジェクトスタッフとして2020年入職。

ブンホン・センパスット
(通称ブンホン)

ラオス事務所 プロジェクトスタッフ。ルアンパバーン国立博物館でボランティアスタッフとして勤務した後、2017年入職。

第2部登壇者
プロフィールプッタナリー・タマミサイ
(通称オイ)

ラオス事務所 カントリーマネージャー。高校卒業後、民間会社に就職。学費をためて大学に進学。シャンティが支援する図書館を訪問、活動に共鳴し2007年入職。

きよたか
玉利 清隆さん

シャンティ国際ボランティア会 経理課課長代行。民間企業勤務後、英国で開発学修士号取得。青年海外協力隊、国連、他NGO、JICAの業務で、アジアやアフリカ、中東などで勤務。2014年シャンティ入職。2018年5月から2022年8月までラオス事務所所長。

たけひろ
小野 豪大さん

ラオス、東京、タイ・ミャンマー国境を拠点に20年間ほどシャンティの事業に従事。北海道教育大学釧路校講師(へき地・小規模校教育研究センター員)。日本国際ボランティアセンター(JVC)理事。

きよこ
安井 清子さん

タイのモン族難民キャンプ、ラオスなどで、シャンティの図書館活動を担当する。その後もラオスにて、モン族やラオスの子どもたちのための図書活動を続けている。民話や伝承の聞き取り、記録などにも従事。著書に「空の民の子どもたち」「ラオス・山の村に図書館ができた」など。「ラオス山の子ども文庫基金」代表。

第1部

ラオスでの
活動の始まりから広がり

安井 当時のバンビナイキャンプは、内戦により難民になったモン族の人々がほとんどで、3万人ほどが暮らす過密な村落という印象でした。シャンティは1985年から教育文化支援を開始しました。

玉利 図書館活動とモン語の絵本作りはどのように始まったのでしょうか。

安井 モン族には文字も本もないと聞いていたので、どうやって活動を進めればいいのか疑問でした。それでも、難民キャンプしか知らない子どもたちに、絵本のおはなしから新しい広い世界を体験してほしい、カタコトのモン語で絵本を見せたのが始まりです。

活動開始から一年がたつころ、子どもたちがモン族にも「おはなし」があると教えてくれました。そこでテプレコダーに子どもたちが祖父や祖母のお話を録音し、図書館で流すようになりしました。そのうち、モン語のアルファベット表記を知る子が文字起こしを始め、絵が得意な子は絵を描くようになりしました。

外から持ち込むだけでなく、そ

第2部

現地職員に聞く、
ラオスの教育の今とこれから

矢島 ラオスの教育にはどういった支援が必要だと思いますか。

タイ 農村部の少数民族の子どもたちにも、より良い学びの機会を得てほしいと思います。絵本や読書の楽しさを知り、絵本を通して新しい世界を発見してもらいたいですし、読書がその後の学習効果を高めると信じています。

ブンホン 教育や学習の質を向上させるために、農村部の教員の複式学級運営能力を高めることが重要だと思います。また、農村部の少数民族の子どもたちのラオス語習得のため、教員に対するラオス語の教え方の研修や、指導のための教材などの支援が必要です。それと、保護者に教育の重要性を伝え、学校に行くよう促すことも必要だと思っています。農村部における退学率の低下や小学校卒業率の向上にもつながるはずです。

オイ 低学年向けの教材も、都会と農村部で大きな格差があり、農村部の多くの学校で教材が不足しています。教材は子どもたちの発育発達・成長のためにとても重要です。できれば遊び道具

こに住む彼らが得意なやり方で進めることが自信につながると強く感じました。自分たちで本をつくる活動が、子どもたちを中心に始まったのはとても良かったと思います。

玉利 事務所設立から10年にわたり注力していた事業の一つが謄写版の普及・配布です。小野さんは謄写版事業を長く担当していましたね。また、1999年からは南部のセコン県で少数民族の子どもたちへの教育支援活動が始まりました。

小野 当時セコン県には14、15の少数民族が住んでいたのですが、ラオス語の識字率が低く、ラオス語を母国語とする教師との意思疎通が難しいという課題がありました。そこで、彼らが親しんでいた民話を紙芝居にし、識字活動に取り組みました。また、表側にラオス語、裏側にセコン県の主要4民族の言語を記した単語カードも作成しました。

教育省から「少数民族の言語を促進するつもりか」と疑問をもたれましたが、バイリンガルなアプローチをとることで識字率・国語力が伸びるという統計や研究があることなどを説明し、少数民族の母語や文化にも敬意を払いながらラオス語学習を進めていく方針を理解していただきました。

やおもちゃなど幼稚園用の教材も支援できたらよいと思います。

矢島 日々現地のニーズは変化していると思いますので、これからも皆さんと議論していきたいと思っています。最後に、このたび副所長となったオイさん、ラオス事務所の今後の展望を教えてください。

オイ 今後展開する事業として、一つはポストコロナにおける学校衛生の改善です。もう一つは少数民族の子どもたちに対するラオス語習得のための支援です。また、今後もへき地の少数民族の子どもたちに焦点を当てていきます。

運営面では、日本人所長が東京事務所を拠点とし、現地職員の責任がより大きくなります。事務所運営と事業運営を現地職員が中心となって行うことは、大きな転換であり挑戦です。今後ともラオスの教育をサポートできるよう、全力で業務に取り組みたいと思います。

ご視聴はこちら



イベントの様子は
YouTubeでご覧
いただけます。

シャンティ設立記念日オンラインイベント プラティープ・ウンソンタム・秦先生講演会



12月10日のシャンティ設立記念日に際し、44年にわたってタイでスラムの子どもたちの教育支援をしてきたプラティープ・ウンソンタム・秦先生をタイよりお招きし、タイにおける取り組みを振り返るオンラインイベントを開催しました。プラティープ先生による講演会と、3名のトークセッションの様子をお届けします。(内容・肩書は2022年12月時点)

登壇者
プロフィール

プラティープ・
ウンソンタム・秦 氏



1952年、バンコクのクロントイ・スラム生まれ。夜間中学生の時に「1日1パーツ学校」を開設。1978年にラモン・マグサイサイ賞を受賞し、翌年ドゥアン・プラティープ財団を設立。2021年、タイ日の関係強化の功績が認められ、旭日中綬章を受章。



秦 辰也 氏

近畿大学国際学部 教授、シャンティ国際ボランティア会常務理事。1984年から2008年までシャンティの専任スタッフとして活動。活動地での社会開発や人権等の問題にNGOの立場から関わる。



山本 英里

シャンティ国際ボランティア会 事務局長 兼アフガニスタン事務所 所長。2001年にインターンとしてタイ事務所に参加。2002年、ユニセフに出向しアフガニスタンで教育復興事業に従事。2003年より、アフガニスタン、パキスタン、ミャンマー(ビルマ)難民キャンプ、カンボジア、ネパールで活動。

第1部 講演会

格差社会タイの今と NGOの役割

2018年の発表によると、タイはロシアやトルコ、インドなどをおさえ、世界中で最も貧富の差が激しい国となりました。貧困家庭の子どもたちが大学に行ける機会も、裕福な家庭の19分の1にすぎないというデータもあります。コロナ禍においては、オンライン授業やリモート教育という手法が盛んに取られるようになりましたが、スマホやPCもなく、Wi-Fiもつながらない貧困家庭の子どもたちにはこれらの教育は届かず、貧困格差から生じる教育格差はますます深刻化しています。

スラムに希望のともしびを求め、 課題と向き合った44年

「1日1パーツ学校」は、16歳の時に姉と始めました。スラムの子どもたちに読み書きをしっかりと教え、搾取されたり騙されたりしないように、自分たちの権利を主張できるように教育を届けたいという想いからでした。しかし、この活動に取り組みれば取り組むほ

ど、子どもたちや地域社会が抱える問題が浮き彫りになりました。不法占拠地区にできた違法な学校だということでも何度も潰されそうになりましたが、後に公立の小学校として認可され、さらにその実績・業績が認められて、フィリピンのラモン・マグサイサイ賞を受賞しました。そこでいただいた賞金をもとに設立したのがドゥアン・プラティープ財団です。

ドゥアン・プラティープ財団は教育を原点とし、奨学金事業や保育園・幼稚園の運営、おはなしキャラバン活動などに取り組みることから始めました。おはなしキャラバン活動はシャンティとのご縁がきっかけで始まったもので、シャンティとの共同プロジェクトです。そのほかにも子どもたちの権利獲得や出生届、防災訓練・教育、コミュニティ開発、さまざまな犯罪に巻き込まれた子どもたちの更生を目的とした「生きなおしの学校」といった活動を続けています。

これまで44年間、多くの日本や諸外国の皆さまのご支援のおかげで、活動を続けることができました。ひいては、今回の叙勲にも至ったということで、御礼を申し上げます。これまで軍事クーデターや政情不安な

どさまざまなことがありましたが、徐々に住民参加型で、自分たちの問題を自分たちで解決していくという環境も整ってきました。これからも皆さまと共に活動を続けていければと思います。

第2部 トークセッション

これからのNGOと 市民社会の役割

山本 プラティープ先生は長年にわたり、タイと日本のつながりを築いてこられました。交流が始まったきっかけを教えてください。

プラティープ 最初の日本との出会いは1973年でした。元日本兵の男性でしたが、敗戦して日本に帰国する際、クロントイ港で当時飢えていた住民がご飯をくれたそうなのです。そのお礼を言うために、クロントイの私の学校に来てくれました。その翌年1974年にNHKの取材を受け、アジアの傑出した若者に与えられる「青年賞」を受賞し、そこから多くの日本の方が訪問するようになりました。

山本 シャンティは1979年にタイ事務所を設立し、そのころからプラ

ティープ先生との交流も始まりましたね。

秦 私がタイに赴任したのは1984年ですが、当時のクロントイは立ち退きや移転問題など、さまざまな苦労があった時代でした。1984年に「おはなしキャラバン」の講演活動をタイで実施したことが縁になって、今に至るまで二人三脚で財団の活動を続けています。

山本 日本のNGO、そして私たち市民社会にどういったことが求められて、何ができるのかをお伺いしたいです。

プラティープ シャンティは国際NGOですから、国際的な課題に向き合う方法がさまざまあると思います。が、これらを明確にして取り組んでいく必要があると思います。また、これまでの40数年を振り返ると、日本の方々はカンボジアの内戦に対して、いわゆる「和平」を目指して取り組んでこられました。このような平和構築に関する方針を、たとえば現在起きているミャンマーの状況に当てはめて、短期・中期・長期の視点を持ちながらしっかりと取り組む必要があると思います。

山本 長年の活動も振り返りつつ、最

近感していることを教えてください。プラティープ ここ数年のコロナ禍で改めて気づいたのは、多くの人たちが力を結集することの大切さです。協働することによって非常に大きな力に変わっていくと信じていますし、これからも日々努力していければと思っています。

秦 先日タイとあるNGOを訪問したところ、ひとりのアフガニスタン人に出会いました。難民として退避してきたとのことでしたが、お互いにタイ語で会話をしたんです。非常に不思議だと思いましたが、これもご縁だと、地球上は完全につながっているのかのように感じました。国それぞれの立場はあれど、市民の間では外国籍の人たち、無国籍の人たちもお互いを支え合っているんですね。これこそ私たちができることだし、取り組んでいくべきことだと改めて思いました。

ご視聴は
こちらから



イベントの様子は
YouTubeでご覧
いただけます。

子どもたちの年齢や文化的背景に応じて必要な絵本は異なり、児童書の書店員、図書館員、出版社から、おすそめを教えてください。それぞれの絵本に込められた想いを紹介します。



絵本に込められた想い 絵本を届ける運動

人と違うことは、すばらしい個性なんだよ

ぼく、ペンギンのジェイムズ。生まれたときから、全身オレンジ色なんだ。みんなに、どうしてって聞かれるけれど、ぼくにもその理由はわからなかった。だけど、ブリザードがきたとき、ぼくの体が輝きだして…。

南極の美しい世界を舞台に、オレンジ色のペンギンの子・ジェイムズが、なぜ自分はオレンジ色に生まれたのか、その意味に気づき、自分の個性を受け入れていく姿を描いています。

情報にあふれた複雑な現代社会に生きる私たちは、何かにつけ自分と他の人を比べて、自分に対して優劣をつけてしまいがちです。でも、個性とは「違い」であって「優劣の区別」ではありません。この社会には、いろいろな人がいて、その違いによって、世界はより豊かにすてきになるのです。自分の個性をよく知って、大切にしてくださいね。



出版社紹介：
櫻井友貴さん
株式会社佼成出版社

1966年創業。仏教精神のもとに、一般書籍、児童書、雑誌、新聞などのメディアを展開している出版社です。児童書は読み物、絵本、ノンフィクションと幅広いラインナップをそろえています。



『オレンジいろのペンギン』 The Story of James』

絵・文：葉 祥明
出版社：佼成出版社

言語・テーマ

かわいいペンギンたちのストーリーを通して、個性とはすばらしいものというメッセージを伝えてくれる絵本。活動地からの希望を受け、2023年度はカンボジアとミャンマーへ届けます。写真はカンボジア・クメール語の翻訳絵本。

参加のお申し込みはこちらから



クラフトエイドはアジア各国で民族独自の伝統や技術を生かした商品づくりに取り組んできました。このページでは民族の手仕事とスタッフおすすめの商品を紹介します。

つくり手さんのぬくもり

CRAFT AID



©Hiromi Yasui

【つくり手さんの紹介】

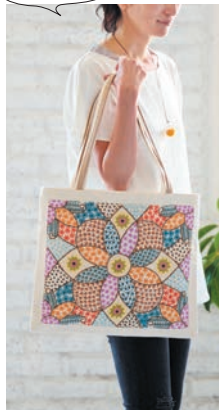
アフガニスタン生産者団体

シルクロード・バーミヤン・ハンディクラフト

アフガン・手刺繍 フラワートート

アフガニスタンのカラフルな手刺繍をぜひに使う大きめのトートバッグです。額縁に飾ってある絵をイメージしてデザインしました。肩ひも部分には異素材の合皮を使い、大人かわいい仕上がりになっています。

スタッフの
おすすめ商品



新商品やお買い得情報も更新中。クラフトエイド・オンラインストアはこちらから。



アフガニスタンのカブールに小さな工房を構えるシルクロード・バーミヤン・ハンディクラフトでは、民族衣装を彩る手刺繍や手織り、ビーズやミラー刺繍、レース編みなど、バリエーションに富む伝統的な手仕事をういた商品製作しています。工房では4人の縫製担当の女性たちと、手刺繍などの素材を製作するグループが所属しています。タジクやハザラ、パシュトゥーンなどさまざまな民族が持つ伝統技術の特徴を生かして、カラフルでユニークな商品を日本に届けています。タリバン暫定政権樹立以降、夫や息子が職を失った家族も多く、女性たちの手仕事によって得る貴重な現金収入が家族の生活を支えています。

シャンティからのお知らせ

人事のお知らせ

●入職

梶ヶ山 薫	広報・リレーションズ課 広報担当	11月14日付
瀧 孝輔	地球市民事業課 海外緊急人道支援担当	2月14日付
矢加部 咲	事業サポート課 海外事業担当	3月14日付
夫津木 廣大	地球市民事業課 海外緊急人道支援担当	4月1日付
柳澤 ちさと	地球市民事業課 海外緊急人道支援担当	5月1日付

●退職

荒川 千尋	クラフトエイド課 クラフトエイド担当	10月31日付
羽賀 美樹	地球市民事業課 海外緊急人道支援 事業アシスタント	12月9日付
岩松 智子	広報・リレーションズ課 絵本を届ける運動担当	3月31日付
三宅 隆史	教育事業アドバイザー	3月31日付
谷島 緑	ラオス事務所 所長	3月31日付

●休職

木下 愛子	広報・リレーションズ課 絵本を届ける運動担当	2月16日より
-------	------------------------	---------

●異動

石塚 咲	事業サポート課 チーフ(カンボジア事務所チーフ・コーディネーターより異動)	3月1日付
喜納 昌貴	アフガニスタン事務所 事業調整 兼 アフガニスタン担当(地球市民事業課 在留外国人支援・海外緊急人道支援担当より異動)	3月1日付
菊池 礼乃	カンボジア事務所 所長(事業サポート課 課長より異動)	4月1日付
加瀬 貴	事業サポート課 課長 兼 ラオス事務所 所長 (カンボジア事務所 所長より異動)	4月1日付
吉川 剛	経理課 課長補佐(経理課 課長より異動)	4月1日付

●昇格

吉田 圭助	広報・リレーションズ課 チーフ リレーションズ担当 (広報・リレーションズ課 リレーションズ担当より昇格)	1月1日付
浅木 麻梨耶	ラオス事務所 チーフ・プロジェクト・マネージャー (ラオス事務所 コーディネーターより昇格)	4月1日付
芦田 雄太	地球市民事業課 チーフ 海外緊急人道支援担当 (地球市民事業課 海外緊急人道支援担当より昇格)	4月1日付
玉利 清隆	運営推進シニアマネージャー 兼 経理課 課長 (経理課 課長代行より昇格)	4月1日付
中原 亜紀	運営推進シニアマネージャー 兼 ミャンマー事務所 所長 (ミャンマー事務所 所長より昇格)	4月1日付
鈴木 晶子	コーポレート・コミュニケーションシニアマネージャー 兼 地球市民事業課 課長代行 (復職、広報・リレーションズ課 課長より異動)	4月27日付

2022年度の絵本が活動地へ向け旅立ちました

2022年に「絵本を届ける運動」へのご支援で収集した絵本が2月2日(木)に活動地へ向けて、シャンティ東京事務所を旅立ちました。コロナの感染状況が少し落ち着いたこともあり、翻訳絵本づくりに参加された企業や団体の方、曹洞宗総合研修センターの方もボランティアでお手伝いに来てくださり、スタッフも含め51名で、340箱18,023冊を無事運び出すことができました。2023年度は17,595冊を目標にお申し込みを受け付けています。今年度よりお手元に届く絵本セットをリニューアルしました。絵本、「翻訳シール」、「あいうえお表」に新たに「参加のしおり」を追加し、絵本を届ける先の言葉と暮らしを学ぶことができる内容になりました。ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。



シャンティ 2023年6月号(通巻317号) | 2023年6月1日発行

発行人：若林恭英
 発行所：公益社団法人シャンティ国際ボランティア会
 〒160-0015東京都新宿区大京町31 慈母会館2・3階
 TEL 03-5360-1233 FAX 03-5360-1220
 WEB：www.sva.or.jp E-Mail：info@sva.or.jp
 編集人：鈴木晶子
 編集・制作：株式会社文化工房
 イラスト：きよはらえみこ
 印刷：株式会社サンエー印刷

当会へのご寄付は、所得税、住民税、および法人税、相続税の優遇措置が受けられます。
 ©Shanti Volunteer Association.
 「シャンティ」は、FSC®森林認証紙にノンVOCインキ(石油系溶剤0%)で印刷しています。



川畑 嘉文(フォトジャーナリスト)

Yoshifumi KAWABATA

ニューヨークの雑誌社勤務時代に9.11を経験し、記者職を捨てて写真の道に進むことを決意。2002年、会社を退職しタリバン政権崩壊後のアフガニスタンを訪れ取材を行った。2005年フリーランスのフォトジャーナリストとなり、世界中の難民キャンプや貧困地域、自然災害の被災地で取材を行い、雑誌や新聞などに写真と原稿を寄稿している。



ビエンカム都へと続く道



上：ラオスの山々に沈む夕日
 下：ビエンカムの朝市。手前に置いてある商品はリス？

「ホームにて」
 ♪ ふるさとへ向かう最終に乗れる人は急ぎなさいと♪。言わずと知れた名曲、中島みゆきさんの「ホームにて」です。
 今から7年前のこと。都会から遠く離れた大自然の中にあるビエンカム郡を訪れていた私は、その日の取材を終えて宿に戻りました。赴任していたシャンティの日本人職員さんたちが小さな食堂に連れて行ってくれました。辺りは漆黒の闇に包まれ、川のせせらぎだけが聞こえてきます。食事を楽しみながら疲れを癒やしていると、職員の方のスマートフォンから「ホームにて」が流れてきました。少しお酒も入っていたのでしよう、この曲は私たちの心をやさしく撫で涙を誘ったのです。それ以来この曲を聴くと郷愁のラオスの夜を思い出すのです。